



「ゴーン、ゴーン」去年の除夜の鐘の音が、つい最近の様な気がしていますが、気が付けば今年も残り一ヶ月ですね。除夜の鐘の準備を進めて、素晴らしかったこの一年の締めくくりとしたいものです。

概念と感覚

良啓

十一月二五日に『秋の寺子屋「数の言葉」を学ぶ』と言う講演会を当山本堂で開催しました。講師の森田真生さんは、独立数学者と言う肩書を持ち、在野で本当の数学の素晴らしさを多くの人に知ってもらおう為の活動をしている方です。

今回の講演の中で、印象に残った言葉が題名の「概念と感覚」でした。人間は物事を感覚で認識し、概念でそれを判断します。例えば、概念が形成されていない赤ちゃんは、手当たり次第に、周囲のものを口に入れます。なぜ「口」なのかと言うと、赤ちゃんの感覚でそこが最も発達しているからです。ところが、現代はデジタル社会になり、感覚を使わないで、それなりの生活が営める様になりました。その結果、感覚が鈍り、概念が揺らぐ人が増えています。これでは人間らしい豊かな生活を営む事は難しくなります。と言うお話しでした。

本当にその様に感じます。私は修行で山に入りますが、夜の山中は危険です。蛇がどこかに隠れているかも知れません。崖を登りますが、命綱はないので自分の手足だけが頼りです。この山岳修行で身体や感覚を鍛えることで山の神聖に意識が広がり、さらに山（大宇宙）と自分（小宇宙）は「宇宙」と言う部分で同じであると感じ入れる事が出来るわけです。こうやって文章にするとわずか数行ですが、山中での体験が無ければ、書けなかったものです。ぜひ、皆様も感覚を研ぎ澄ませ、そこから自分の概念（心、魂）が判断する言葉＝真言に耳を傾けては如何ですか？

身近にある仏教と言葉①

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

玄関

住居に必ずある「玄関」ですが、元々「玄（奥が深い悟りの境地）に入るための関門」という意味の仏教用語です。中世に禅宗寺院が出入り口に「玄関」と文字を掲げた事により、禅宗寺院の出入り口や山門の事を玄関と呼ぶようになりました。一般的な住居の出入り口という意味で使われるようになったのは、江戸時代以降といわれています。

たくあん

皆さんに「大根の漬物といえは？」と尋ねると、「たくあん」が思い浮かぶのではないのでしょうか？一説によると徳川三代将軍家光が、

沢庵和尚たくあんというお坊さんが住職をされている東海寺に参詣した際、大根の漬物を食べていたく気に入りました。

「名前が無いのであれば沢庵漬けと付けるがよい」

と言った事からたくあん漬けと呼ばれるようになったそうです。

